

さいたま市長定例記者会見

令和5年3月9日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、毎日新聞さん、進行をよろしくお願ひします。

○ 毎日新聞 3月の幹事社を務めます毎日新聞と申します。よろしくお願ひいたします。

では、本日の記者会見内容について、市長から説明をお願ひいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

3月に入り、春の暖かさを感じられる日が多くなってまいりました。既に市内の各所で河津桜が見頃を迎えており、例年よりも早い桜の訪れを感じているところでございます。

市内にはたくさんの桜スポットがありますが、私のお勧めは何と言っても見沼田んぼの桜回廊、見沼代用水沿いに総延長20キロメートルにわたって続く、日本一の桜回廊でございます。

今年も多くの皆様が訪れることと思いますが、この桜回廊は、市民の皆様、そして団体や企業の皆様によるご寄付やご協力をいただきながら、植樹や維持管理を行ってまいりました。皆様との協働によって作り上げてきた、言わばさいたま市を象徴する景観でございます。この場をお借りしまして、皆様に感謝を申し上げたいと思います。

今月の25日、26日には、この桜回廊の下、「さいたまーチ」が4年ぶりのリアルウォークとして開催されます。また、「見沼田んぼの桜回廊 春まつり」も併せて開催されます。ポストコロナに向けて動き出しますこの春、桜満開の春を私も市民の皆様と一緒に楽しみたいと思います。

それでは、議題に入らせていただきます。

市長発表：議題1「3月13日以降のマスク着用の考え方について」

議題1「3月13日以降のマスク着用の考え方」についてご説明します。

先般、国はマスクの着用の考え方を見直し、3月13日以降、マスクの

着用については、個人の判断に委ねることを基本としました。その上で、感染防止対策としてのマスクの着用が効果的である場面を示し、医療機関を受診するときなど、一定の場合にはマスク着用を推奨することとしています。市民の皆様には、この取扱いについてご理解いただきますとともに、3月13日以降も基本的な感染対策は重要となりますので、3つの密の回避や手洗い、また換気などの取組を継続してお願いします。

本市職員の勤務時間におけるマスクの着用につきましては、3月13日から個人の判断に委ねることを基本といたします。ただし、本市の医療機関や高齢者施設等に従事する者が当該施設で勤務する場面、また医療機関、高齢者施設等を訪問する場面、また市民等と窓口で対応する場面に限りまして、マスクの着用を基本といたします。

市民の皆様には、新型コロナウイルス感染症患者が国内で初めて確認されて以来、約3年の長きにわたりまして、多くの場面でマスクを着用していただいております。3月13日から、マスクの着用は個人の判断に委ねられることとなります。不安を抱える方も多くいると思います。

そこで、本市では3月13日から当面の間、不安を抱く方々に寄り添いながら、職員がマスクを着用する場面を適切に定め、また段階的に歩みを進めつつ、日常を取り戻していくことに努めていきたいと考えております。市民の皆様には、本市の対応にご理解、ご協力をお願いいたします。

最後に、私から市民の皆様へのお願いです。3年間にわたりまして、新型コロナウイルスによって、私たちの生活は様々な制限を受けてきました。学校が休校になったり、緊急事態宣言が発せられたりしてきました。そして、ようやくその出口が見え、準備段階としてのマスク着用のルールが個人の判断に委ねられることとなります。先ほどご説明したとおり、国が着用を推奨する場面もあります。それらを参考に自ら判断いただきたいと思えます。私もそれぞれの場面で適切に判断していきたいと考えております。

多くの方が様々な不安を感じながらの移行期間になると思います。また、事情によりマスクのできない方や逆にマスク着用が必要な方もいらっしゃいます。市民の皆様におかれましては、本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるようご配慮をお願いします。

市長発表：議題2「浦和駅周辺まちづくりビジョン キックオフシンポジウム～風格で魅了する都心・浦 和の魅力～」を開催します

続きまして、議題2「浦和駅周辺まちづくりビジョンキックオフシンポジウム～風格で魅了する都心・浦和の魅力～」を開催します。についてご説明します。

このシンポジウムは、先月10日に浦和駅周辺まちづくりビジョンを策定したことに伴って、開催するものです。浦和のまちの将来像や、その将来像の実現に向けたまちづくりの進め方について説明しますので、皆様奮ってご参加ください。

それでは、説明に入ります。

まず、浦和駅周辺まちづくりビジョンについてです。この計画は浦和らしい風格のある都市づくりを進めていくために、多くの皆様に携わっていただきながら検討を進めてきました。平成30年度から基礎調査を始め、浦和駅周辺の土地利用状況等を調査し、浦和のポテンシャルや課題を整理し、令和3年度には建築家の隈研吾さんをはじめとした有識者による懇話会を立ち上げ、これまで4回開催して、ビジョンの検討を進めてきました。あわせて、ワークショップやオープンハウス、アンケート調査などを実施し、様々な機会で市民の皆様の浦和への想いを伺ってきました。

これらの検討を経て、昨年12月には本ビジョンの素案をお示しし、パブリックコメントを実施しました。21件の様々な視点からの意見を頂戴し、最終的な計画策定に向けてさらに検討を重ね、市民や事業者の皆様、また行政等が共有するまちづくりの指針として、令和5年2月10日に策定することができました。

このまちづくりビジョンでは、浦和のまちの将来像を「洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心・浦和」としています。これは、先ほどご説明したとおり、これまでに様々な方の想いを頂戴する中で、まちの誇りを生み出し、育て、継承しているのは「浦和のひと」であり、「浦和のひと」こそが「浦和のまちの宝」であることを導き出した結果、「ひと中心」、「まちの継承」に「持続可能性」を加えた3つの基本理念から策定したものです。

そして、将来像を実現するために、まちづくりの方針を2つ設定しました。方針1「浦和のまちの魅力が成長するリ・デザイン」では、世界に誇れる魅力の創出、まちの風格につながる浦和の顔の形成や、さらに住みやすく災害に強いまちに向け、ヒューマンスケールなまちの拠点とネットワークのリ・デザインに取り組んでいきます。

そして、方針2「浦和のひとが成長し続けるサステイナブル・サイクル」では、ヒト、モノ、カネ、情報、エネルギーが地域や広域を循環し、相互に発展することや、多様なつながりによって浦和のひとたちが助け合い、学び合い、自己実現できる環境の創出など、まちの主役である人の成長を支える持続可能な循環の仕組みづくりに取り組んでいきます。この2つの方針を踏まえ、浦和の文化、教育、スポーツや県都としての誇り、愛着などをさらに磨いていく「まちづくりの展開」を設定しています。

次に、ビジョン策定後におけるまちづくりの進め方についてです。1つ目は、ひと中心の視点で、デジタル技術等を効果的に活用しつつ、地域資源を生かしながら新たな創造を生み出すひと中心の都市デザインによるまちづくりを進めていきます。また、まちの現状や課題を認識、共有し、同じ目標や方向性を持って、ともにまちづくりに取り組むために公民連携のエリアプラットフォームを構築するとともに、シンポジウムやワークショップを開催し、情報発信や参加の機会を増やすなど、市民協働のまちづくりを進めていきます。

2つ目は、アクションプランの検討です。将来像の実現に向けて取り組むべき事業について、具体的なアクションやプロジェクト、公民の役割分担の考え方を示すアクションプランの検討を進めていきます。特に現庁舎地の利活用検討や、まちなかウォークアブル推進など重点的に取り組む事業についてはリーディングプロジェクトとして位置づけていきます。

そして、このビジョンを多くの皆様に知っていただくための機会として、「浦和駅周辺まちづくりビジョンキックオフシンポジウム」を開催します。このイベントは、浦和のまちづくりビジョンを共有する多様な主体が一つのチームとなり、将来像を実現するというゴールに向かってボールを蹴り出す、まさにキックオフのシンポジウムとしています。3月17日（金）14時から浦和コミュニティセンターの多目的ホールで行います。定員は、

150名程度を予定しています。市のホームページなどから申し込みを受け付けています。申し込み期限は3月12日（日）までです。報道の皆様におかれても、ぜひ会場まで取材にお越してください。

シンポジウムは、3部構成で、第1部では、策定した浦和駅周辺まちづくりビジョンについて、策定の経緯、浦和のまちの将来像、今後のまちづくりの展開について、3D都市モデルなどの新技術を活用しながら、私から説明します。

続いて、第2部では、浦和を中心に活動している市民活動団体から菊地様、堀様、松原様、三ツ口様にご登壇いただき、ご自身たちが行っているまちづくり活動について内容をご紹介いただくことになっています。

菊地順子様は、NPO法人A r t s & H e a l t hさいたまで、心も身体も健康で生きがいを感じ、心豊かに暮らせるまちづくりに関する事業を進めています。

また、堀哲郎様は、税理士での知見を活用して、地域経済循環について様々な事業支援を展開されています。

松原満作様は、一般社団法人バイクロアで自転車レースイベントの開催や全国各地でバイクロアを企画運営されています。

また、三ツ口拓也様は、一般社団法人うらわClipで、市役所前の広場におきまして「うらわLOOP」などといった企画を開催しています。

この方々には、今後のエリアプラットフォームの構築に向けて大変期待しており、お話を聞いた方がまちづくりに参加するきっかけになればと考えています。

続いて、第3部では、都市デザインやウォークブルのプロジェクトにつながるものとして、有識者懇話会の隈研吾会長を招き「音を通して浦和の手ざわりを考える」をテーマとしてトークセッションを行います。

トークセッションでは、建築家でデジタルテクノロジーの活用や美術・哲学などとの領域を研究されている平野俊樹様と、東京とロンドンを拠点とするラジオプロデューサーであり、またMUSICITYの創設者であるニック・ラスコム氏をお招きして、文教都市浦和にふさわしいお話をさせていただきます。私としても、都市デザインやウォークブルなまちづくりの検討に向けた有用なご提案やアイデアをいただけるものと期待しています。

す。

最後に、ビジョンとキックオフシンポジウムについては、それぞれのホームページで詳細を確認できます。シンポジウムの申込みは、ウェブからも可能ですので、ぜひご確認ください。なお、当日都合が悪くて参加できない方は、後日シンポジウムの様子を動画で配信する予定です。

私からは以上です。

議題に関する質問

- 毎日新聞 では、市長の説明について代表で質問させていただきます。
 このマスク着用の考え方についてなんですが、マスク着用を推奨するところに通勤ラッシュ時など混雑した電車、バスに乗車するとき、混雑した場面が危険なのかなと思うんですが、それが危険だったら何かマスクの着用が効果的などところに、感染拡大時に混雑した場所に行くときというのは、重症化リスクの高い方じゃなく一般人も入れたらいいんじゃないかと思ったんですが、いかがでしょうか。
- 市 長 もちろん密になる場所については、リスクが高まることもありますので、着用することが必要な場面もあると思います。いずれにしても、場面に応じて着脱についてご自身で判断していただくことがこれから重要になると思います。改めてご理解いただければと考えております。
- 毎日新聞 ありがとうございます。
 市長説明について質問のある方は、マイクを使ってお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
 マスクの着用の基本については、国の方針と違うところがあるのかというのと、違うところあるんだったら教えていただきたいのと、どうしてもお子さんの問題が今言われていますけれども、お子さんの着脱の問題点というか、その辺を市長からも子ども向けにちょっと呼びかけてもらいたいなど。
- 市 長 まず、国の方針との違いはありません。国の方針にのっとって進めていきます。
 学校については4月1日からマスクを外して活動することが文部科学省からも通達が(来ると聞いて)来ておりますので、基本的にはそういう方向です。お子様についても、親御さんも含めまして、密になったり、リス

クの高いと思われる方々と接したりする場面以外はマスクを外していただければと思います。お子様の場合は、どうしても外せない、あるいはつけるということが非常に課題であるという、これはお子様に限ったことではありませんけれども、それぞれ個人の事情もあります。いずれにしても個人の判断を尊重していただくことが望ましいと思っていますので、私たちとしてはそういった環境づくりをしっかりと進めていきます。

これまでは、子どもたちにも通学时、あるいは学校生活の中で、室内では基本的にマスクを着用することが推奨されてきましたけれども、これが大きく変わることになりますので、マスクを外しても大丈夫な時期になってきたことは、しっかりとお知らせしていきたいと考えていますし、最終的には個々の皆さんのご判断で、つけたりつけなかったりできることを併せてお知らせしていきます。

○ 読売新聞

読売新聞です。

マスクの着用についてなのですけれども、例えばマスクの着用を推奨する場所として国が示したものを基にしていると思うんですけれども、例えば市内の医療機関であるとか高齢者施設とか、あるいはラッシュの電車、バス等が挙げられていますが、そうした該当するような場所に例えば市として何か分かりやすいステッカーを貼るとか、何かそういったものはお考えのものがありませんでしょうか。

○ 市長

今後、そういった表示なども考えて対応していきたいと思います。マスクの着用については、何度か方針が変わってきているので、改めて周知していく必要もあると思います。そうした中で対応していきたいと考えております。

幹事社質問：新型コロナが2類から5類に変更されることに伴い、現在、県が担っている入院調整機能はどうなるのか。

○ 毎日新聞

それでは、幹事社質問をさせていただきます。

新型コロナウイルスが2類相当から5類に変更されることに伴い、現在県が担っている入院調整機能がどうなるのか、病院の関係者だったりがすごく心配されているところなのですが、確かにまだ国が医療体制についてどうするかと発表していない中、もう新年度の準備を病院等、あとお役所もやらなければいけない準備、そのときに体制をどう整えるかはもう既に

検討しているとは思いますが、その検討状況を教えてください。

○ 市長

まず、本市を含む埼玉県内におきましては、これまで新型コロナウイルスの患者で、入院が必要となった場合には、各保健所から埼玉県に連絡をして、その情報を基に埼玉県の入院調整本部が一括して各患者の入院先を調整してきました。国は、本年5月に予定している類型の見直し以降、これまでのように独自に行政が関与する体制から、他の疾患と同様に、通常の医療連携の枠組によって個々の医療機関の間で調整を行う体制へ段階的に移行する方針を示しています。本県の入院調整の体制につきましても、今後国から示される具体的な方針の内容に沿って見直しが進められることになりません。

先般、埼玉県が本市ほか保健所設置市向けに実施をしました説明の機会におきまして、県の担当部局から現時点で国が示している情報の範囲での検討状況について報告がございました。

いずれにしても、新型コロナウイルスの5類移行については、市民生活、また医療機関の対応に一定の影響が伴うものと思われまますので、今後とも混乱が生じないように、担当部局を通じまして、埼玉県と情報を共有してまいりたいと考えております。

以上です。

○ 毎日新聞

県からどんな説明があったのか聞いてもいいですか。

○ 市長

埼玉県から報告された情報は、未確定な情報を基にした限られた条件の中であらゆる可能性を念頭に、今後の新型コロナウイルスの医療体制について検討されたものとお聞きしております。本市として具体的にどういう方向だったのかについては、本市からは説明するという状況ではないと考えておりますので、そこについてはご理解いただきたいと思ひます。

○ 毎日新聞

幹事社質問に対し質問がある方、回答に対して質問のある方はお願いいたします。

幹事社質問に関する質問

○ 読売新聞

読売新聞です。

もう国のほうでも出ていることではありますが、市長に改めて新型コロナウイルスが2類から5類に変わることへの受け止めを伺えますでしょうか。

○ 市長 約3年余りにわたりまして新型コロナウイルス感染症との闘いがずっと続いてきて、私たちも感染予防であったり、感染された方々の対応についてかなり重点を置きながら対応してきたところです。今回、重症化率の低下や感染者数の減少の中で、第5分類に変わることについては、新型コロナウイルスのようやく出口が見えてきたということで、うれしく感じているところです。

とはいっても、新型コロナウイルス感染症がなくなるという、全くないという状況ではありませんので、私たちとしては引き続き警戒感を持って対応していきます。2類から5類に変わること、これまでとの取扱いが大分変わってきます。それに向けてできる限り市民の皆さんに不安を与えないよう、しっかりと埼玉県や市内の医療関係者と情報を共有しながら対応していきたいと、市民の皆さんに安心感を与えられるようにしていきたいと考えています。

○ 毎日新聞 その他の質問ある方どうぞ。

その他：住みたい街ランキング結果について

○ 東京新聞 東京新聞です。

ちょっと話題はがらっと変わりますが、先月の22日にリクルートさんが毎年恒例の住みたい街ランキングを発表されまして、今年は大宮が前年と同じ3位、浦和が5位から12位に転落して、トップテン入りを外しました。去年が3位と5位で、すごくさいたま市内としても大きなことだったので、喜ばしいことだったと思うのですが、今回浦和がこれだけ落ちてしまった受け止め、それでリクルートさんは再開発の影響とか、お店が減ったとか、分析をされているんですけども、それも踏まえて受け止めと、あと浦和についてどう順位が上がるような取組ですとか、何か市として考えていることとかというのはいかがでしょうか。

○ 市長 それでは、ご質問にお答えしたいと思います。

まず、昨年引き続きまして、大宮がトップ3にランクインしたことについては大変喜ばしいと考えています。1月末に総務省が発表した住民基本台帳人口移動報告では、東京23区が再び転入超過数1位、さいたま市が第2位で、市町村では、さいたま市が2年連続で転入超過数も第1位になりました。社会経済活動の復調の兆しがあり、東京の吸引力が戻りつつ

ある中で、大宮がトップ3をキープしていることについては、コロナ禍による一過性の結果ではなく、さいたま市が住みやすいまちとの認識が市内外で高まってきている証ではないかと考えています。

また、浦和が5位から12位にランクダウンしたことにつきましては、残念ながら総合順位は昨年から下がったわけではありますが、年代別ランキングで見ますと、30代で過去最高順位の7位となったほか、ライフステージ別ランキングでの夫婦プラス子ども世帯では昨年に引き続き4位をキープしているようでした。若年層や子育て世代の評価は高いと分析しています。

実際本市の転入傾向を見ても、浦和区をはじめ全市的に20代、30代の転入者が多いという傾向があります。また、浦和区の転入者数は依然として市内でも上位で、総務省が発表した住民基本台帳人口移動報告によると、令和4年中のゼロ歳から14歳の区分では、市内で最も多いのが浦和区ですので、子育て世帯に選ばれていると言えると考えています。

これは、本市独自の英語教育、グローバル・スタディをはじめ特色ある学校教育の展開、教育環境の整備を図ってきたことなどによって文教都市として浦和の都市イメージが首都圏においても定着してきたと考えています。

また、昨年浦和駅西口南高砂地区の再開発がスタートして、ちょうどこのランキングの調査時期が、まさに解体工事真っただ中であったので、これも少なからず影響があったと考えています。

今後再開発が進むにつれ、着実にまちへの期待感が高まってくると考えています。市民と事業者の皆さん、また行政が共有する指針として「浦和駅周辺まちづくりビジョン」を策定したところですので、引き続き市民協働、また公民連携のまちづくりを進めていくながら、教育、文化、スポーツなどの浦和の良さをさらに発揮していくことで、浦和に対する期待が高まってくるものと考えています。来年、再来年になると、またかなり大きくランクアップするのではないかと期待しているところです。

○ 東京新聞

少しはしょって、もうちょっと感想的なことをもう一回聞ければと思うのですが、今の話ですと、再開発ができるのは約3年後なので、それに向けて上がっていくのかなという市長の期待の声だったのですが、それまで

はそうするとしばらくは順位的にはなかなか厳しいのかなど。ずっとコロナ禍もあって上がっていたので、市長としては、その再開発が1つ、あとさっき言っていたまちづくりビジョンに向けて、浦和も大宮に負けないぐらいの発展を目指していくという理解なのでしょうか。

- 市長 今回浦和駅周辺まちづくりビジョンを策定して、今後の浦和のまちづくりの方向性を今回改めて示すことができました。今進んでいます(浦和駅)西口南高砂地区の再開発事業に加えて、浦和駅周辺まちづくりビジョンを、市民の皆さんにも、市外の皆さんにもご理解をいただく中で、当然、(浦和の)順位がまた上がってくると考えていますし、(今回の浦和の順位が下がったことは)一時的なものだと考えているところです。

市外の皆様にとっても、この浦和が魅力的なまちであることを、浦和駅周辺まちづくりビジョンなどを含めて発信することで、さらに期待が高まってくるものと考えています。

- 埼玉新聞 今の関係ですけれども、どうしても市庁舎移転が昨年4月に決まった後の調査なので、その辺の影響というのはどう見ているのでしょうか。

- 市長 それについては、ゼロとはもちろん申し上げられませんけれども、それほど大きな影響ではないと考えています。大宮のまちづくりも、ビジョンはできつつあるけれども、これからという状況で、3位に上がってきていますので、浦和についても、未来のビジョンが2月によりやく策定できましたので、これをしっかり広報し、ご理解いただくことで、住みたいと言われるまちに(なっていく)期待を持っていただけると考えています。

その他：(仮称) 染谷公園の整備に関する要望書が出された件について

- 埼玉新聞 別件ですけれども、昨日見沼田んぼの自然保護団体の方が市長に要望書を出されたということで、要望書を御覧になったのかということと、その要望書を受けて、受け止めをお願いいたします。

- 市長 要望書については、拝見させていただきました。もちろん見沼田んぼは、首都圏に残された非常に貴重な大規模緑地空間で、農業はもちろんのこと、市民の皆さんの憩いの場であり、自然との触れ合いの場であり、あるいは多様な野生生物の生息の場として貴重な空間であると私どもは認識しています。見沼田んぼの自然環境の保全活用を十分配慮していく考えは、これ

までと変わらないものです。地元自治会と締結しました協定内容を履行するために、地元や自然保護を推進する市民団体をはじめ関係する方々の意見を引き続きしっかりと伺いして、できるだけ工夫をしながら取り入れていきたいと考えています。人と自然が共生できるような環境をしっかりと守っていききたいと考えています。

○ 埼玉新聞 自然保護団体の方は、どうしても一旦切られると、どんどん森の木が切られるのではないかとすごく不安を覚えているということなのですが、その辺の不安解消についてお願いします。

○ 市長 先ほども申し上げましたけれども、見沼たんぼは、首都圏の中で大変貴重な大規模緑地空間であり、特にこのアフターコロナの時代の中で自然環境を豊かに保有しているということは、さいたま市にとっても大変大きな財産であると思っています。私たちは、この見沼たんぼの自然環境の保全活用に十分配慮して、見沼たんぼが持っている農業の場であったり、市民の憩いの場であったり、自然との触れ合いの場であったり、多様な野生生物の生息の場であったりという、そういった役割に十分配慮しながら、人と自然が共生できる環境をつくっていくことが基本的な考え方です。しっかりと保全活用していきたいと考えています。

その他：与野中央公園の整備事業について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞社です。よろしくお願いいたします。

中央区の与野中央公園の整備事業について伺います。公園内に次世代型スポーツ施設として収容人数5,000人規模のアリーナの建設が計画されているということで、先日周辺住民を対象にした説明会が行われましたが、地元の住民の皆さんは、市民利用に特化した市民アリーナの建設ということで理解をしていたという方がいらっしゃって、そういうプロスポーツの興行などが行われる大規模アリーナというのはこの計画で初めて知ったという声も聞かれました。地元の方の思いとしては、計画ができる前に説明なり相談があってほしかったという声も聞かれました。また、こういう大きなアリーナができることで、市民の憩いの場としての公園になるのかという、このアリーナ建設に関して多くご質問やご意見が聞かれたのですが、こういった説明会でのご意見というものの市長の受け止めと、この施設、市長としてはどのような形の施設を目指していきたいかという

ところをお聞かせいただけますでしょうか。

- 市長 地域住民の皆様に対しましては、これまでも段階的に進行の中間報告として、いろいろな形で情報提供や、説明会なども行ってきたところです。計画の中で、地域住民の皆さんがスポーツをする場としての機能は十分入れています。それに加えて、さいたま市の大きなまちづくりの柱の一つでもあるスポーツを活用したまちづくりとして、さらに大規模な興行など行えるスポーツ施設を併せて整備させていただくことをご説明させていただいているところです。ですので、これまでの（地域の方がスポーツをする）機能が減るということではなく、地域の住民の皆さんにとっても使える環境は十分に持った上で、プラスアルファとして（大規模興行を行える施設を整備する）ということです。いずれにしましても、地域住民の皆さんに、十分にご理解をいただいているというケースもあろうかと思えます。丁寧に説明をしながら進めていきたいと考えています。

- 埼玉新聞 説明会というのは、今後予定はまだあるのでしょうか。

- 市長 それは、後ほど所管のほうからご連絡します。

その他：新たな教育委員への期待について

- 埼玉新聞 先日、教育委員に新しく池田さんが就かれるということで、その人選の理由と期待をお願いいたします。

- 市長 経済活動を通じた幅広いご経験があり、経済をはじめとした社会全体から見た教育の方向性などについて大変多くの知見を持っていらっしゃる方だと感じています。また、経営者であったということもあり、いわゆる教育、あるいは人材の育成ということに対して大変強い情熱と思いを持っている方でもあります。これまでの知見や、教育、人材育成といったことに対する情熱をこれからのさいたま市の教育行政の中に生かしていただくことを期待しているところです。

- 毎日新聞 以上をもちまして本日の記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

- 進行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は3月23日木曜日午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時12分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。